

人間授乳牧場

"人間授乳牧場"

この牧場には母乳に飢えた男たちが集まってくる。

広大な緑の芝生で地面を埋め尽くされたこの牧場には、もちろん牛や馬などの生活の助けとなってくれる家畜もいるが、実はこれらはサブ的なものにすぎない。

この牧場のメインはここで生活する健康的な20代前半から後半にかけての淑女たちである。

彼女たちはここで生まれ育った。

幼少の頃から緑溢れる自然の中で生活し家畜の乳を飲み育った女性たちは、ふくよかに育った大きな乳房の持ち主ばかりである。

そしてその乳房から出る母乳も実に凄い量である。

「あぁー飲んでえ！！」

この日もたくさんの男性たちが集まってきた。

しかし際限なく募集をかけてもとても対応しきれないため、ここへ来ることが出来るのは選ばれた一部の幸運な男性たちだけだ。

「牛の乳??そんなの興味ねえよ、女!!女のおっぱいを飲みに来たの！」

あまりに待ちわびすぎて少し先走り気味の男性諸君は、牧場で雇われた納屋の掃除担当のじいさんに強めの口調で迫る。

「まあそう焦るでない。準備は整っておる。どうぞあがりなさい！！」

その言葉が言わば授乳タイムスタートの号令合図だ。

男性たちは広い厩舎へ駆け込み、そして区切りの木壁で分け隔てられた狭い空間の中で大きな乳房を放り出して待機している女性たちの元へ駆け寄る。

そして各々が個室ならぬ各区切りの空間へ入り・・・・。

チュウチュウチュウ・・・・チュパチュパ・・・・。

やっとありつけた、とばかりに目をつむって一心不乱に大きなおっぱいに吸いつく男性たち。

その柔らかい感触、ピンク色の突起、そしてその突起から吸い上げると、溢れるほどにどンドン出てくる母乳。

彼らがずっと欲していた飲み物に満を持してありつけたのだ。

チュプチュパチュパ。

牛乳はどここのスーパーマーケットでも売っている。

だけど牛乳よりもさらに濃くてジューシィで栄養分たっぷりの母乳はここでしか飲めない。

吸って舐めて吸って舐めて、を繰り返す。

両側からギュッと強く揉みながら吸い上げると、まるで牛の乳さながらの大量の母乳が女性たちの乳房から次々と出てくる。

彼女たちは言わばこれがプライベートでもあり仕事だ。

そしてこの行為に生きがいを見出しており、この瞬間は男性たちだけでなく授乳する彼女たちにとっても最高に至福の時間なのだ。

「あはあん、もっとチュパチュパって吸ってえ！」

喉の渴きすら癒せるほどの大量の母乳。

さらにあらゆる養分が含まれており、その日男性たちは食事をする必要がないくらいだ。

そして望む者には・・・・。

女たちはおまけとして授乳だけでなく出来る限りの"ご奉仕"を行う。

厩舎の各空間に待機していた女たちは、やってきた男性たちに母乳だけでなくあらゆる快楽を提供する。

乳房だけでなく羽織っていたピンク色の上着を全て脱ぎ捨てて全身を露わにし、その肉体を男性たちに与えるのだ。

もちろん女たちの体は健康体そのもの。

広大な自然で育ち、太陽の光を浴びてすくすくと成長したその若くてムッチムチの体は、ハリがあって柔らかく、男性たちを無我夢中にする。

だから妊娠もしていないのに母乳がどんどん出てくるのだ。

裸になった女性の全身を貪る男性諸君。

だけど、彼らが最も求めているのはやはり女のおっぱいであり母乳。

よって・・・・男性たちは皆、おっぱいに吸いつくことをメインとしながら、たっぷり女性の色んな部位をまんべんなく触って揉んで吸って、楽しんでる。淫乱極まりない快楽。まさに夢のような時間。

最上級の興奮状態でビンビンに勃起して戦闘態勢になったペニスを、女

のおっぱいの間に挟み、左右の乳房に包まれながらシュコシュコ。

人間の体でしか有り得ない感触。人工的に作ることは不可能な、人間の柔らかさ。そしてそれを飽きるほど繰り返した後は、今度は女性たちがそのペニスを口に含むのだ。

ジュブブブブ、ジュルルルル

おっぱい、お口、いろんな部位を使って、男性たちの望むままにご奉仕する。

———体験版はここまでです———